

地方公共団体の行財政運営の特性と地方公会計に求められる要素

地方公共団体の行財政運営の特性

- ① 公共の福祉の向上等を目的とし、税という無償性・強制性を特徴とする一般財源を中心に、市場性のない公共財を提供するため、議会手続を経て予算を執行するという民主的な手法で最適な資源配分を行う。
- ② 社会資本形成等の資本的支出が大きな割合を占め、公債の発行により多年にわたる財政支出を伴うことから、将来世代への先送り額を適切に把握する必要がある。また、高度成長期に整備された公共施設の大量更新が全国的に見込まれていることを背景に、今後の更新需要を適切に把握する必要性が高まっている。
- ③ 補助金や地方交付税など、国からの移転収入が収入において大きな割合を占める。

地方公会計に求められる要素

- ① 地方公共団体の業務運営の状況を明らかにする観点からも、業務に係る総コストを示すとともに、どのような財源により、どのような分野に重点的に資源配分しているのか、経常的事業・投資的事業を含め、財源・資源配分の一覧として示す必要があるのではないか。
- ② 世代間の負担の適正化を図る等の観点から、現役世代の受益と負担の関係や将来世代への負担の先送り額を明らかにする必要があるのではないか。
- ③ 税や補助金、地方交付税などそれぞれの財源の特質を踏まえて、どのような財源の調達によって事業が実施されているかを示すことが必要ではないか。